

(別表)「継続保全される地域/重要里地里山」抽出のための必要データ一覧

1km²(100ha)以上の里地里山エリアは、ポイントを中心とした円で描写。
(それ以下は、ポイント(緯度・経度)を含むメッシュを着色)

別表

視点	選定基準(案)		活用予定データ等	(概要)	凡例	スケール	備考	データ引用元	
	評価項目(案)	判断基準(案)							
継続保全エリア (自然と人との かかわりが維持 されている地域)	地域での活動 の継続性	継続的な担い手確保 の可能性が高い	集落の存続可能性が高い	生物多様性評価地図 2050予測人口(「人口減少により 管理の担い手が減少すると予測 される地域(第2の危機)」)	今後人口が減少し、管理の担い手が不足すること が予測される地域を示した地図 (地域に「人が住んでいる」ことを評価)	・無居住地化 ・25%以下(全国減少率以下) ・25-50%(人口が半減) ・50-100% ・100%以上(人口が増加)	3次メッシュ	左記凡例より、 「無居住地化」以外を対象	*平成17年度国勢調査(総務省) *メッシュ別将来人口(国交省国土計画局の推計値)
			アクセスが良い	接近の容易さ (高速IC、鉄道駅からの距離)	外部から人々(通い作業者や都市住民)がくるため には、彼らの居住地から当該地域へ接近しやすい ことが重要な要因となる	高速ICから5~20km圏 鉄道駅から5~20km圏			左記概要は、「農業集落整備対策調査報告書 H11.3」(農水省)の「農業集落診断マニュアル」を参考に記載
	地域主体の活動が活 発である	地域(活動団体)主体の取 組により継続的に保全活 用が行われている	特徴的な取組事例(環境省) ほか	環境省「里地里山を未来へ～里地里山保全・再生 に向けた特徴的な取組事例アンケート調査～ (H21)」を実施し、全国から里地里山の特徴的な取 組事例の情報を収集			ポイント(緯度・経 度)、 エリア情報	各事例のうち、対象フィールド(エリア)が特 定できるもの	*事例集「自然と共に生きるにぎわいの里づくりのために」(144事 例) *里なびホームページ掲載の国内事例、里なび登録団体 *「日本の里地里山30」選定団体 *「田園自然再生活動コンクール」応募団体 など
			森・里・川・海をつなぐ自然再生の 全国13事例	「自然再生を推進する市民団体連絡会」が河川、 里山、森林の各分野から自然再生の先駆的事例と して選定したもの			事例単位 (主に市町村)		*書籍「森里川海をつなぐ自然再生」(自然再生を推進する市民 団体連絡会)
			「生態系サービス支払い(PES)」 優良事例	コウノトリやトキなどの保全と生物多様性や環境に 配慮した持続的な農業を目的として自治体の働き かけによって取り組みが開始され、そこで生産され た商品が徐々に普及し、地域の活性化につながっ ている事例			事例単位 (主に市町村)		*蕪栗沼のふゆみずたんぼ(宮城県大崎市) *コウノトリの野生復帰とコウノトリ育む農法(兵庫県豊岡市) *トキの野生復帰と米づくり(新潟県佐渡市) *魚のゆりかご水田プロジェクト(滋賀県内26地域約111ha(H21 年度))
	外部評価が得られて いる	持続的な農林業 への評価	SGEC森林認証	国際的な基準を用いて持続可能な森林経営を 行っている森林を認証するシステム (目的:7つの基準と35の指標で生物多様性など 森林の環境機能の維持及び水土保全など森林の 多面的機能の増進を図る)			森林単位 (面積ha)	大規模林地が主であり、里山としての森林 は少ないか (基準として残すか要検討) FSC認証は「管理者」を対象としているた め、対象地の特定が困難かも	*「(一社)緑の循環認証会議」HP(森林管理認証森林一覧)
			世界農業遺産認定	伝統的な農業や文化風習・生物多様性の保全を 目的に国際連合食糧農業機関(FAO)が認定			認定地域単位 (複数市町村)	(認定基準) ・食料及び生計の保障 ・生物多様性及び生態系機能 ・知識システム及び適応技術 ・文化、価値観及び社会組織(農文化) ・すばらしい景観及び土地・水管理の特徴	*「能登の里山里海」(石川県) *「トキと共生する佐渡の里山」(新潟県) *「静岡の茶草場(ちゃくさば)農法」(静岡県) *「阿蘇の草原と持続的農業」(熊本県) *「国東(くにさき)半島宇佐の農林漁業循環システム」(大分県)
			JGAP 農場認証	食の安全や環境保全に取り組む農場に与えられる 認証(農場やJA等の生産者団体が活用する農場・ 団体管理の基準であり、認証制度、農林水産省が 導入を推奨する農業生産工程管理手法の1つ。)			農場単位	大規模農場が主であるとともに、認証有効 期間が2~3年と短く流動的 (基準として残すか要検討)	*日本GAP協会のHPにて農場情報検索可能 公表農場数:1749農場(2013.3.31現在)
		地域固有の景観、歴史・文 化への評価	「にほんの里100選」(朝日新聞 社、(財)森林文化協会)	景観・生物多様性・人の営みの3要素を選定基準 とし、人の営みが育んだすこやかで美しい里を100 箇所選定			エリア情報		*「にほんの里100選」ホームページ (情報の使用許可も必要?)
			「ニッポンの里山」(NHK BSブ レミアム)	暮らしと多様な生き物を育む自然が調和した全国 の里山を訪ね、旅を通して土地の美しい風景に出 会い、人と共存する多様な自然をみつめるミニ番 組「ニッポンの里山・ふるさとの絶景を訪ねる旅」で 紹介された里山	(全59カ所)		エリア情報		*「ニッポンの里山 ふるさとの絶景に出会う旅」(NHK)ホーム ページ (情報の使用許可も必要?)
			「重要文化的景観」(文化庁)	文化的景観の中でも特に重要なもので保護の措 置が講じられているものについて、都道府県又は 市町村の申出に基づき選定	(平成25年4月1日現在、全国で 35件選定)		エリア情報		*「重要文化的景観」(文化庁)ホームページ (情報の使用許可も必要?)
	地域の活動への評価	モニ1000里地調査 「全国の里地調査サイトの分布」	里地里山の生物多様性の現状・変化を捉えるため に調査を行うサイト 100年間を目指して複数項目にわたる総合的調査 を実施する「コアサイト」、1項目以上の調査を5年 間以上行う「一般サイト」がある	(2012.10現在) ・コアサイト(18) ・一般サイト(175)		ポイント(緯度・経 度)	対象は「コアサイト」のみ 一般サイトは5年後ごとの見直しが行われる ため対象外とする	*各サイト情報(環境省生物多様性センター)	
		「田園自然再生活動コンクール」 受賞(地域環境自然センター)	農村の持つ豊かな自然環境の再生を図り農業生 産と自然が共生する地域づくりを推進するため農 家、地域住民、NPO等が協力して実施している 「田園再生活動」の仕組みを募集して優良事例を 表彰	(これまで全10回開催) 累計約70団体		エリア情報	受賞団体のみ対象 一部は上記の「地域主体の取組」に入っ ている。 (情報が毎年更新されるため、単独で基準と する場合は要検討)	*受賞団体の活動状況(インターネット情報等)	
	関連施策による継続 的な保全活用が行われ ている	行政等による施策対象で ある	地方自治体策定の生物多様性地 域戦略の施策対象地域	戦略内の「里地里山保全活用」に関する施策対象 地	(H24年度末時点) 23都道府県、11政令指定都市、 17市区町		都道府県 市町村	今後も年々策定自治体は増えるものであ り、現時点のものだけを対象とするのか要検 討	*関係自治体の地域戦略の記載内容参考 (里地里山関連施策の抜粋)
			地域計画等による指定地域				ポイント(緯度・経 度)		*自治体の里地里山地域指定の事例 ex.「守り伝えたい福井の里地里山(福井県重要里地里山30)」
		既存制度等で指定・選定さ れている	生物多様性評価地図 「保護地域の指定状況」	国立・国定公園など、法律に基づき一定の開発・ 捕獲規制等の行為が制限されている保護地域等 を抽出 届出制の区域では、一定規模以上の開発行為の みが届出の対象とされている				ポリゴン	左記、全凡例を対象とする (凡例対象は、自然環境保全地域(国・県)、 自然公園(国・県)、鳥獣保護区(国・県)、森 林生態系保護地域)
国有林、保安林			国あるいは地方自治体によって、公的に担保され ている森林						*国土数値情報 森林地域データ
	特定農山村地域	特定農山村地域における農林業の活性化のため の基盤整備の促進に関する法律に基づき地域指 定された市町村および旧市町村の区域				当該区域として定 義された領域 (面)	農山村地域(生業維持)としての継続的土 地利用につながる制度であるとして対象とした	*国土数値情報 特定農山村地域データ 面の一部がメッシュ重心に重なれば自動着色	

視点	選定基準(案)		活用予定データ等	(概要)	凡例	スケール	備考	データ引用元	
	評価項目(案)	判断基準(案)							
重要里地里山(国土レベルの生物多様性保全上特に重要な地域)	里地里山の自然条件	多様で優れた二次的自然環境を有する	生物多様性評価地図「小規模で開発等に対して脆弱な生態系を有する地域」	比較的小面積で希少な生態系(標高や地形、土壌などの特異な環境要因を反映した生態系)を選定した既存調査の情報を整理	・高木林(複層のもの) ・低木林・草原(単層のもの) ・未分類 ・重要湿地500(海中除く)	ポイント、調査において選定された群落等	左記、全凡例を対象とする	* 生物多様性保全のための国土区分ごとの重要地域情報(H13.環)10ha未満 * 重要湿地500(H13.環) * 自然環境保全基礎調査 第2・3・5回特定植物群落調査(S53~H10.環)など	
			希少な生態系を有する	土地分類基本調査(自然地形分類図)	土地分類基本調査や土地条件図等の既存の地形分類図、空中写真、地形図などを利用して、宅地造成などにより土地の人工改変が行われる前の自然地形を復元し、地形の形態・形成時期・構成物質などにより分類した地図	・山地・火山地 ・台地 ・低地 ・水部	縮尺5万分の1地形図	左記凡例より、「低地(扇状地/谷底低地/氾濫原低地)」を対象とする	* 「土地分類基本調査(土地履歴調査)成果利活用マニュアル(H22.10)」(国土交通省 土地・水資源局 国土調査課)
			土地利用のモザイク性が高い	生物多様性評価地図「農地とその他の土地被覆のモザイク性を指標とした里地里山地域の分布」	農地を中心としてさまざまな環境が入り交じる里地里山地域を、Satoyama Indexという指標で示した	・広範囲で農地が優先する ・農地を含む土地被覆のモザイク性が低い ・ " " が高い	1単位 6km×6km(計36グリッド)	左記凡例より、「モザイク性が高い地域」を対象とする	* Taku Kadoya&Izumi Washitani(2011)The Satoyama Index 環境省データだけでは使えない。データ元に要相談。
	希少な生物が生息・生育している	<動物>より多くの希少種が生息している	「相補性解析に基づく保護区候補地の選定(鳥類・蝶類・両生類)」(東大研究成果の活用)	各種の分布データ、環境要因、分布予測の重ね合わせから解析したものであり、日本全国スケールにおける定量的な保全地域の優先づけを行う 相補性解析:対象全種の分布データを使用し、種の組成がなるべく重ならない(相補性の高い)区画を順次選ぶことで、できるだけ少ない面積で効率的に保護区を選定する方法	鳥類 蝶類 両生類	2次メッシュ(蝶類と両生類では、3次メッシュも検討)	全種で解析。相補性解析は、分布の狭い絶滅危惧種の分布域が結果的に優先して選定されることになる。	[データまち] 本来の調査は、愛知目標(2020年までに陸域及び内陸水域の17%の保護区増加)に向け、現在の保護区(国立公園、国定公園)と希少種分布(鳥類、蝶、両生類)のギャップについての解析を実施するもの。保護区とのギャップの解析は2次メッシュ単位。東大では、2013.10に鳥類とりまとめ、その後、蝶・両生類の解析にとりかかる予定。	
			分布域が限られている種が生息している	生物多様性評価地図「分布域が限定される絶滅危惧種の確認種数(動物)」	絶滅危惧種(類及び類)のうち分布域がごく狭い種(分布記録のある2次メッシュが10メッシュ(国土の約0.2%)以下に限られるもの)を対象として、それらの種が集中的に分布する地域を評価	(メッシュ内の種数) ・1 2-5 ・6-10 11-15 ・16-20 21-36	2次メッシュ	左記、全凡例対象 対象種:国内の分布メッシュ数が2次メッシュで10メッシュ以下の動物429種	* 第2回、第3回、第5回、第6回 自然環境保全基礎調査(哺乳類/鳥類/両生・爬虫類/淡水産魚類/陸産・淡水産貝類/昆虫類) * 田んぼの生きもの調査(H14~21、農水省)
			<植物>より多くの希少種が生育している	生物多様性評価地図「全ての絶滅危惧種(維管束植物)の効率的な保全に寄与する地域」 生物多様性評価地図「維管束植物RD掲載種の短期的保全指数(C指数)」 生物多様性評価地図「維管束植物RD掲載種の長期的保全指数(D指数)」	RD掲載種のうち、1,219種について相補性解析を100回繰り返した場合に、優先的に保護すべき地域として選ばれた回数(回数が多いほど非代替性が高く、重要性が高い場所と考えられ当該メッシュに分布する全ての種を保全することによって減少を止めた場合に、日本全体での絶滅リスクが緩和される度合いを示す 当該メッシュに分布する全ての種の個体群が完全に失われた場合に、日本全体での絶滅リスクが増大する度合いを示す	・「効率的な保全に寄与する地域」に選ばれた回数(1-25、26-50、51-75、76-99、100) 保全効果の高い地域 生息地破壊による影響の大きい地域	2次メッシュ 2次メッシュ	左記凡例より、「100」のみ対象(100以下の数値は自由に設定可能) 2次メッシュ単位ごとの対象種の分布個体数および10年間の減少率情報を用いた。全メッシュ数の17%(愛知目標)にあたる760メッシュを、値の高い順に抽出。	* 植物(維管束植物)RDB 公開種分布データ(H13.環) * 植物(維管束植物)RDB 非公開種分布データ(植物分類学会・非公開) 相補性分析は東大・国環研・九大の研究に基づく
			分布域が限られている種が生育している	生物多様性評価地図「分布域が限定される絶滅危惧種の確認種数(維管束植物)」	絶滅危惧種(類及び類)のうち分布域がごく狭い種(分布記録のある2次メッシュが10メッシュ(国土の約0.2%)以下に限られるもの)を対象として、それらの種が集中的に分布する地域を評価	(メッシュ内の種数) ・1 2-5 ・6-10 11-15 ・16-20 21-91	2次メッシュ	左記、全凡例対象 対象種:国内の分布メッシュ数が2次メッシュで10メッシュ以下の維管束植物629種	* 絶滅危惧種分布情報公開種 植物 維管束植物(H12RDB刊行時データ、H19RDL選定時データ) * 日本植物分類学会提供データ(H19植物分類学会)
			~確認用(動物・植物)~里山地域に依存性の高い種が数多く集中している	「里山地域を主たる分布域とする生物にとって重要な里地里山地域」(東大提案)	種の分布面積を用いて、里地里山への依存性の高さと全国的な希少性(分布域の狭さ)を指標値として算出し、指標値の高い里地里山を価値の高い里地里山として抽出	鳥類 蝶類 両生類 植物	鳥類:2次 蝶・両生類:3次 植物:2次	対象は絶滅危惧種に限らない(ただ「希少性」を見ると、結果的にはそうなる) 上記(相補性解析)で選定された地域で漏れがないかの確認を行う	[データまち] 上記研究(鳥類のみ)終了後、作業予定(東大宮下研ほか)
			国土配置上の重要性	生態系ネットワークの確保に寄与	生きもの視点から見たつながりの確保に寄与	全国エコロジカル・ネットワーク構想「全国レベルのエコロジカル・ネットワークの将来図」	指標種、希少な種、生態系の多様性の3つの観点から検討 将来図は、第三次生物多様性国家戦略を参考に、50~100年程度先を見通し、日本が進むべきおおよその方向を示すもの	・コアエリア:(希少な生態系)里地里山特有のオオタカ、サシバが生息 ・バッファゾーン:農耕地、二次林、人工林等(植生自然度2) ・拠点(食料資源等の安定的確保の視点/快適環境創出の視点/生態系保全の視点) ・軸(つなぐ軸:山地・丘陵地のつらなり/河川/海岸、つながりを強化すべき地域)	縮尺5万分の1現存植生図(コア:2次メッシュ) 視座点ごとの抽出地区は3次メッシュだが、拠点・軸はざっくりと落としてあるのみ

里地里山3次メッシュ:
現存植生図において、農耕地(植生自然度2・3)、二次草原(植生自然度4・5)、二次林(植生自然度7と、植生自然度8のうち、シイ・カシ萌芽林を抽出)の合計面積が50%以上を占めており、かつ、上記3つの植生区分のうち、少なくとも2つの植生区分を含む3次メッシュを抽出。